

いきいき 行田人

情熱を注ぐクラブリーグ 自主運営と人間形成

とうせん
東泉 嘉一さん (70歳・駒形)

今月は、これまで審判員として数多くの社会人野球でジャッジを行い、現在埼玉県野球協会の専務理事を務めている東泉嘉一さんを紹介しします。

東泉さんが小学生のころ、友達同士が集まってやるスポーツといえば野球でした。それからずっと野球を愛好し、19歳のころから審判もこなすようになりました。24歳のときに講習を受けて全日本軟式野球連盟埼玉県支部に登録された東泉さんは、現在の忍城址にあった本丸球場で社会人野球の審判として公式戦デビュー。その後、日本社会人野球協会に登録されると、昭和2年から続く歴史ある社会人野球のトーナメント「都市対抗野球」に出場するようになり、平成11年の70回大会まで、33年間連続してこの大会の審判を務めました。また、昭和42年の埼玉国体に出場したほか、昭和45年から3年連続で行われた日本野球連盟審判講習会に参加。「このときはルールブック



を頭にたたき込んだよ」との言葉どおり、参加者60人の中でトップの成績を収めると、33歳という審判員の世界では異例の若さで全国大会初出場を果たし、その後、同講習会で8年間講師として後輩の指導にも当たりました。

3年前から埼玉県野球協会の専務理事に就任し、県内の企業チームとクラブチーム合わせて15チームが年間に行う約130試合の企画運営を一手に引き受けている東泉さんは「これほど多くの試合数が組めるのは全国トップクラス」という公営球場が充実している埼玉県の恵まれた環境を生かし、力のないチームでもたくさん試合を経験することができる「クラブ野球リーグ埼玉」を考案し、平成17年にスタートさせました。「現在目標としているのは、クラブチームによるリーグの自主運営。景気悪化によるチームの厳しい運営状況を考慮し、球場の確保や使用料はしばらく協会が支援する一方、使用済みのボールを再利用したり、選手に大会の裏方の仕事なども任せたりして大会運営を経験させています」と負担軽減の工夫をみんなでやっというところという東泉さんの考えは、クラブチーム全体に広がり始めています。「今でも市内の大会で審判を務めることもあるけれど、体力が持たないよ」と苦笑いする反面、クラブリーグによる人間形成を真の目標に掲げて日々奔走する東泉さん。少年のころから注いできた野球への情熱は、これからも衰えることはありません。

私の作品

俳句

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

谷郷 大谷 峯生
世の憂さを共に飲み込む心天

荒木 小林 康男
今は昔秘めごともなき星祭

須加 須加かつ江
瓜揉みに白き器の似合いけり

本丸 諸貫 節子
夏休み口出し手出ししたくなり

持田 太田 保夫
立葵咲き登り細りけり

棚田町 財津ニチエ
鶉篝の川面の明り夢を食む

下忍 島崎 もと
稲妻の一刀両断夜を分かつ

行田 門井 美豫
誰か来る吊橋のゆれ星月夜

谷郷 増山 忠男
虹の輪にとどくが如しスカイツリー

城南 関口 操
風鈴や主の買いたる音さびし

城南 町田ツギ子

蓮の花みぢかき命おしむなり

南河原 今村 文女

なま欠伸扇子に隠し受診待つ

前谷 石井マサ子

梅雨晴に赤いマニキュア手にかざす

佐間 須永 節子

孫の着る乙女の匂ひ初浴衣

持田 田子 敏枝

古代蓮己が連座にしてみたし

(木島 斗川 監修)



『お茶道具』(陶芸と竹細工)
荒井 洋治 (下忍)